

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400762		
法人名	社会福祉法人 宝寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ゆうゆう		
所在地	〒679-2415 兵庫県神崎郡神河町福本1241-3 (電話) 0790-32-3333		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年6月28日	評価確定日	平成19年8月7日

【情報提供票より】(平成19年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1階3,500円・2階40,000円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有()円 (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成19年6月20日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.3歳	最低 63歳	最高 97歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立神崎総合病院 ・ 藤川医院
---------	-----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

神河町内でも市街地からは離れた山の斜面にあり、自然に囲まれ静かな環境にある。ホーム内は自然光がよく入り、共用部分や廊下も広いのでイベントや行事にも活用している。利用者が自主的に行動しており、カルタ取りが日中何回も繰り返されたり、部屋から出てこられない利用者を心配して、他の利用者が声かけして一緒に出てこられるなど、食堂で利用者同士で賑やかに過ごしたり、職員の関わりも丁寧、また明るく、利用者の状況に配慮したもので共に過ごしている雰囲気がある。今後は、利用者の加齢や病状の進行等に併い身体的にも介助を要する利用者が増えてきており、利用者個々のペースや希望にあわせ、余裕のあるサービス提供に向けて職員の配置や、地域・ボランティアの協力、利用者・家族の参加等に向け、積極的な取り組みが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回の評価で出された改善課題の中で、地域に出ることや、感染症対策、引継ぎ帳の確認等については改善しているが、まだ改善に向けて取り組み中の課題もある。サービスの質の向上をめざし、計画的な取り組みが望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 今回の自己評価は、全職員で行なう方針で職員一人ひとりが自分がやらねばという意識を強くしたので、集まれる時集まれる人数で検討し、実践の振り返りができている。今後も改善に向けて全職員で計画的な取り組みを継続することが期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 家族には月1回心身状況等についての頼りを送付し、また年1回ユニットの便りやホームの様子が掲載されている法人の便りも送付している。家族の訪問時に意見や要望を聞いたり利用者には急な変化がある時は電話連絡している。家族からの意見が出してもらいやすいよう行事や家族会の際に話しを聞く等しているが、今後も家族との話し合いを更に深め、ホームの運営やサービスの向上について共に考えていける取り組みが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族には月1回心身状況等についての頼りを送付し、また年1回ユニットの便りやホームの様子が掲載されている法人の便りも送付している。家族の訪問時に意見や要望を聞いたり利用者には急な変化がある時は電話連絡している。家族からの意見が出してもらいやすいよう行事や家族会の際に話しを聞く等しているが、今後も家族との話し合いを更に深め、ホームの運営やサービスの向上について共に考えていける取り組みが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) ホームが市街地や近隣住宅からは遠く、気軽に行き来は望めないものの、地域の清掃作業に職員が参加するなど地域の一員としてつながりを持つように努めている。運営推進会議などを通じて地域の方の出入りが増えてきており、地域のボランティアがこられ、利用者と顔なじみの方が出入りされるようになった。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念と共に、今年度新たに地域密着型サービスであることを意識し、「地域の方に支えられ歩いていこうゆうゆうで」の理念を作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全ての職員から募集し、全職員で検討して選んでいる。日々のサービスに反映できるように、地域との結びつきを意識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが市街地や近隣住宅からは遠く、気軽に行き来は望めないものの、地域の清掃作業に職員が参加するなど地域の一員としてつながりを持つように努めている。運営推進会議などを通じて地域の方の出入りが増えてきており、地域のボランティアがこられ、利用者と顔なじみの方が出入りされるようになった。		利用者が個々に地域に出かけていく機会としては少ないので、今後関わりが持てるような環境の整備が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価で出てきた課題について改善に取り組んだが、改善できていない項目もある。今回の自己評価は、全職員で行なう方針で職員一人ひとりが自分がやらねばという意識を強くしたので、集まれる時集まれる人数で検討し、実践の振り返りができている。		前回より継続している課題、また今回の振り返りや評価で出てきた課題等について、改善計画を作成する等、今後も職員全員でサービスの質の向上を目指す取り組みが期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2回会議が持たれており、1回目は地域包括支援センターの方よりホームの運営の説明を受け、2回目はバーベキューの行事と組み合わせた参加の形で持たれている。会議のメンバーが様子見がてらお茶をのみに訪問されたりしている。</p>		<p>ホームの取り組み内容について更に活発な意見交換ができるよう、より効果的な会議の運営が望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町へホーム運営について質問や相談をしており、町の包括支援センターにグループホームに関する情報が入ったら、情報提供してほしいと要望している。</p>		<p>地域密着型サービスにおいてサービスの向上のためには町と共に取り組んでいくことが不可欠なので、今後も積極的にホームの実践内容を伝えるなどの働きかけが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の体調等の現状、金銭管理状況等を月に1回家族に送付し、また別に年に1回ユニット毎の便りとホームでの行事等の様子が掲載されている法人の便りを、それぞれ送付している。家族の訪問時に話をしたり、急な変化がある時は電話連絡をしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訪問の時や、バーベキューやクリスマス会などのイベント時に職員から声をかけたり、また家族会の際に意見を聞くようにしている。</p>		<p>今後も家族との話し合いを更に深め、ホームの運営やサービスの向上について共に考えていける取り組みが期待される。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的にはあまり職員の変更はないようにしている。退職や異動がある場合でも2週間程度前から新しい職員と引継ぎを行なう体制がある。利用者に異動等の説明を行い、お別れ会を利用者と共に持っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームで月1回勉強会を行い、法人の職員研修にも月に1回交代で参加している。認知症介護実践研修や認知症ケア専門士研修も受けるようにしており、介護福祉士等の資格取得を奨励し勤務等の配慮をしている。必要に応じて外部研修にも参加するようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神河町に3カ所グループホームがあり、当管理者からの呼びかけでネットワークが組まれている。取り組みが始まったばかりであるが、3カ所のホームで交代で2ヶ月に1度会議等を開催する予定である。		今後も町内のネットワークの継続的な取り組みや、全国や県域の連絡会等での情報収集など積極的な取り組みが期待される。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅から入居の利用者は自宅を訪問し、利用者・家族と話し合いの機会を持ってどのような生活をしているか把握するようにしており、試用的に入居してもらう場合もある。併設の施設から入居される利用者には、1週間前から体験をして慣れて頂くようにしている。入居後も自宅に帰りたいたいという思いの強い方には1日自宅へ外出する等もなっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭でできない介護に力点をおきながらも利用者との生活を通して、料理の仕方を聞いて職員が腕をあげたり、お風呂は男性からそして目上からという利用者の意識や習慣を尊重したり、おかしいことや嬉しいことを共に笑ったり喜んだりしながら過ごすようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人本位となるように日々の会話や関わりの中で希望や意向を引き出すようにしているが、困難な場合は家族から聞いている。家へ帰りたい思いの強い利用者に、家族の協力で自宅でお昼だけ食事して日帰りで帰宅できるよう調整したこともある。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族・主治医の意見は聞くようにしている。利用者の担当職員は利用者に関する月間報告書を提出しており、3ヶ月ごとのケアプラン見直し時に反映されているが、カンファレンス等の利用者に関わる職員全員での意見交換にまでは及んでいない。</p>		<p>利用者に関わる全ての職員が介護計画について意見交換し反映させていくことが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎の見直しはされており、変化のある利用者には計画が更新されているが、全員の振り返りはできていない。</p>		<p>大きな変化のない利用者についても1ヵ月に1回程度は新鮮な目で改めて計画を確認したり、または変化の兆しに予防的な対応をしていくことが望まれる。パソコンシステムを導入しつつあるので、利用者ごとの日々のデータと一定期間の経過を効率的に見ていくことも可能となることが見込まれるので、今後の取り組みが期待される。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>介護保険制度上の事業は実施していないが、通院で家族が送り迎えが困難な場合にホーム職員が送迎や、付き添いをしている。また持病のある利用者の緊急入院などにも家族や病院と話し合いが持たれ緊急時の体制がとられている。高額介護費についてのアドバイス等、家族への相談支援も行なっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、家族や職員が通院に付き添う体制をとっている。緊急時は家族等の同意を得てホーム協力病院に受診している。入院時は看護サマリーを入手して、病院を訪問している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を尊重しており、過去にホームで看取りの経験もある。職員としてもホームで終末ケアを行なうことには前向きな姿勢であり、医療機関との協力体制もできている。利用者の家族には行事の後の話し合い等で説明したが、まだ全員とは共有できていないところもある。		話ができている家族等には可能な限り早く話をすることや、個々の利用者について改めて話し合う等の取り組みが期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活面で自尊心を傷つけない言葉かけに取り組んでおり、排泄、入浴では声のかけ方や見守りの方法等で特に気配りするようにしている。個人のデータはパソコンに入力されており、重要なデータを見る場合はキーワード設定している。個人ファイルは鍵が掛かるロッカーに保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の予定は設定しているが、利用者同士で自然に百人一首を始めたり、将棋をさしたり、あるいは居室へ戻ったりと利用者の主体性を尊重している。利用者間で朝体操をしようという話になるとテーブル等の機材を用意している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が嗜好調査をもとに献立表を作成しているが、時々畑で収穫した野菜を取り入れたり、2週間に1度は利用者による献立で買い物から一緒に行なう取り組みもある。食事をミキサーにかける必要のある利用者には元の形を見せてからにしている。準備や片付けも利用者の状態に応じて参加があり、職員も共に食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホーム開設時は夜の入浴を希望される方は夜の入浴もあったが、現在は午後2:00～4:00が定着している。介助や見守りを要する方が多く、夜の入浴は職員の体制から困難な状況である。		利用者の意向を再度把握し、希望や生活リズムに合わせた入浴ができるよう体制整備が望まれる。
の					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が自分の役割として、洗濯物たたみや掃除をしたり、盆栽や畑仕事の得意な方はホーム内で力を発揮できるようにしている。将棋を指したり、書を教えるボランティアを招き、また饅頭づくりの仕事をしていた方は毎年ホームの鏡餅をつくってもらったりしている。利用者手作りの手芸作品等を町の作品展にも出品している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	市街地からは遠く、山の斜面上にホームがあり、気軽に地域に外出できる環境にはない。しかし、月1回程度の外出支援で好きなものの買い物やドライブの等取り組みはある。また、ホームの前には畑があり花等も植えられているので外気浴ができるようにしている。		自然環境に恵まれているので、利用者個々の思いで少し遠くでも気軽に散歩したり、出かけたりできるよう、地域やボランティア等の力をかりる等、機会作りに取り組むことが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニット玄関のドアは人が通るとチャイムが鳴るようにして出入りできるようになっている。しかし、利用者居室の掃きだし窓は開けておく希望がない限り施錠し、ホーム玄関は内側から暗証番号で開くようになっている。		ホームの外に自身の意志で自由に出入りできないことも拘束の一部と捉えられるため、利用者の安全を確保しながら、日中鍵を掛けない工夫について職員間で話し合い取り組むことが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	併設の施設と共に、消防署の協力のもと年2回夜間も想定した防災避難訓練を実施している。職員に訓練日を知らせない抜き打ち訓練も行うなど、より実践に近い形で取り組んでいる。近隣に住居などがなく、緊急時に地域の協力としては得にくい状況にある。		さらに警察や地域など幅広く協力体制がとれることが期待される。運営推進会議に警察や消防署に出席を依頼したり、災害対策の取り組み状況等を話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	食事や水分の摂取量は個別にチェックし、栄養バランス等把握するようにしている。腎臓の悪い利用者には小さいコップで水分の過剰摂取にならないよう配慮している。併設施設の栄養士に栄養のバランスについてアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ホームやユニットの玄関、食堂や居間など季節の花が飾られ、利用者の話題にもなっている。大きめの窓から外の光が入り、共用部分の家具には利用者の動きやすさ等には配慮しながら、家庭で使われるようなものを置くように心がけている。台所には家庭的な水屋や台の低いキッチンなどの配慮があった。居間には蓄音機があり、地域の方がレコードの取替えにこられている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室は畳の方や、床にベッドを置くなど利用者の希望や状態に合わせている。持ち込みについては入居時に働きかけ、馴染みの家具、写真、家族が持ち込まれたブーケの飾りなどで思いおもいに利用者の個性に合った部屋作りできるように努めている。		

 は、重点項目。